

そして、小生は子供のように小鳥の玩具を付けたリュックを枕元に置き、熊本の可愛い子供のことを思いながら静かに寝むった。



第 6 日目 (7 月 25 日 (金))

念願の島原鉄道に乗車 保育園の先生から普賢岳復興後のガイドを受ける

博多南線 在来線なのに「青春 18 きっぷ」使用不可 新幹線に乗車踏破する

諫早-加津佐-諫早-肥前山口-鳥栖-久保田-西唐津-姪浜-博多-博多南-博多

今日は、今までの普通列車乗りではなく新幹線に乗る日であった。

新幹線は、どちらかと言うと好きではなかった。

どこの駅も代わり映えせず どこの駅も同じに見え、乗客は何の変化もない人が乗っている。

その点、普通列車は違っており、特に ローカル 線を走っている列車が 1 番好きな乗り物である。

その ローカル 線の代表的な路線の 1 つが島原鉄道である。

今日は、先ず島原鉄道に乗車するのである。

翌朝、夜が遅かったにも係らず早い目覚めであったのは昨日の酔っ払いのせいであった。

“ 坊主憎けりゃ袈裟まで憎い ” と言われるが、“ 酔っ払い憎けりゃ今朝まで憎い ” であった。

いつもながらと我ながら感心するが、起床 ラッパ による起床ではなく目覚まし時計で目が覚めた。

目覚ましは、携帯電話の設定と携帯の目覚ましを持ち歩いており、万一でも、寝坊にならないようにしていた。

これに、ホテルの モーニングコール を加えれば完璧であった。

持ち歩いていたのは、40 年前の昔から愛用している ゼンマイ 式の アナログ 時計である。

万一の電池切れの心配はなく、チェック も事前にできるからである。